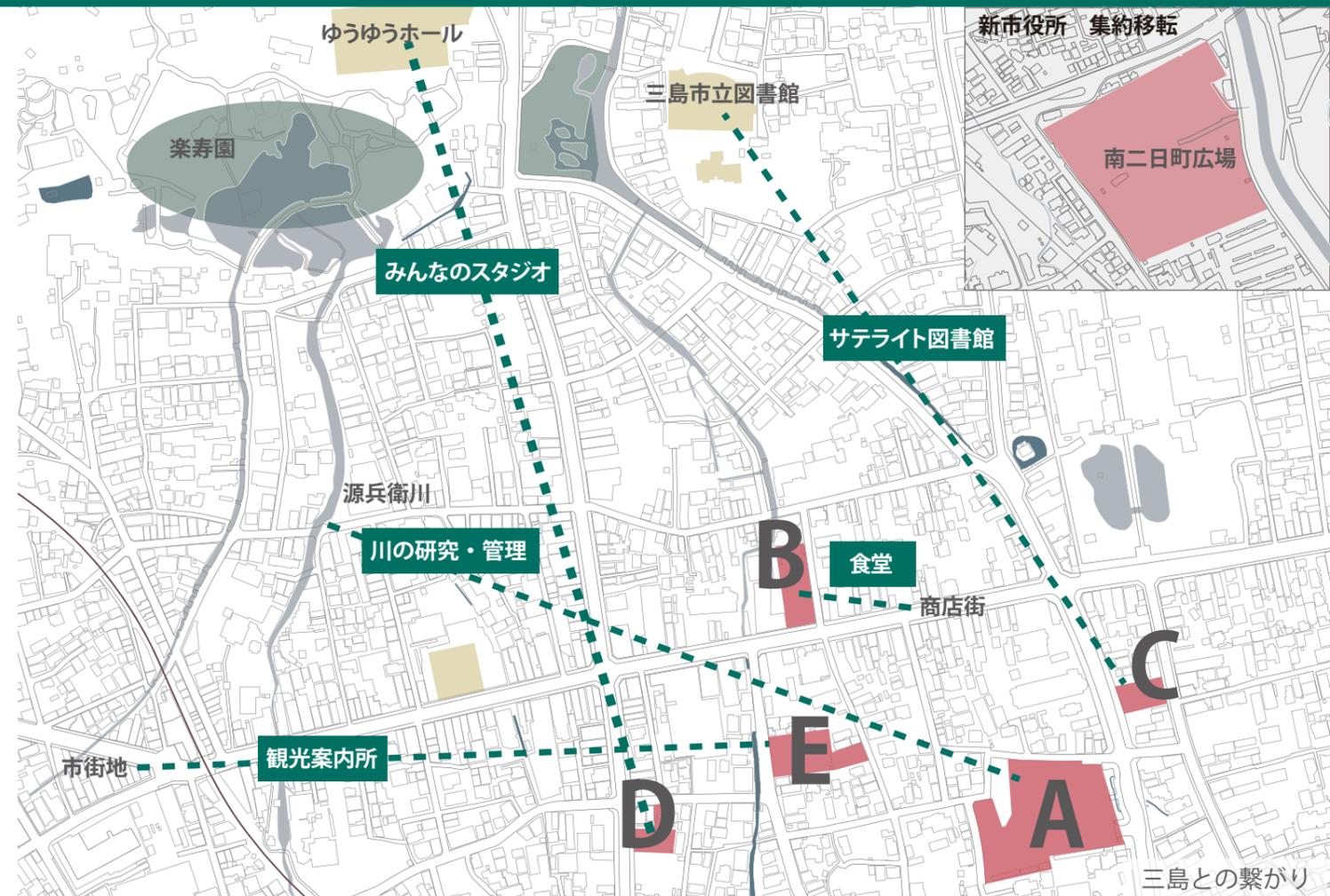




2022.11.17 明治大学大学院 三島スタジオ

うま班
うま

互学 —社会参画によって作られていく新しい都市モデルの提案—



01 背景

これまでの日本では民主主義というと集計民主主義、つまり個人の意見や意向を多数決で政治決定する考え方が主流であり、都市もそれに合わせて形成されてきた。市民が政治に参画する機会はほとんど投票の場のみとなり、自分が社会の一員であり、都市をつくっていると実感する人は少なくなってしまうのではないだろうか。



本課題では三島市の市庁舎集約移転をきっかけに、三島が市民同士の「学び」の集積によって社会がつくられる都市モデルの先駆けとなることを計画する。現状の三島にある、いわゆる学習の場・学びを享受する場としての文化施設や、豊富な環境・観光資源、商店街、そして三島に暮らす市民や訪れる観光客、というポテンシャルを生かすことが重要である。



02 提案

市民同士の互学によって個人が社会参画を実感できる新しい都市モデルを提案する

三島には目的を持って訪れた人のみが学びを享受することができるようなゆうゆうホールや市立図書館、生涯学習センターなど「一方的な学び」の場は多く存在する。その既存の施設に加え、「互学」や「体を動かす学び」などを含む、広義の学びの獲得が誘発される施設を5つの跡地に計画する。そこは市民自身が社会をつくっている一員であると自覚できる都市を実現する最初の拠点となる。このシステムや思想が市民に浸透することで、5つの拠点から街中に広義の学びが自発的に広がり、個人が社会参画を実感できる新しい都市モデルが確立されることを目標とする。



一方的な学び



体を動かす学び



互学

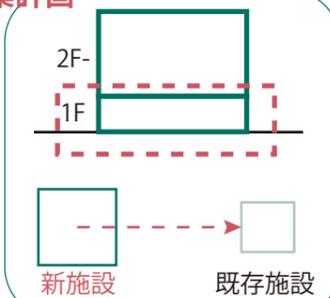
03 全体の共通ルール

建築計画



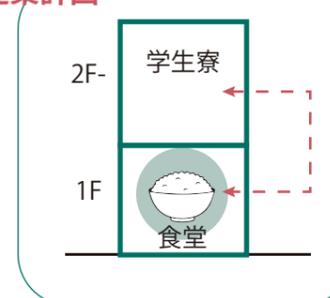
①異種用途の掛け合わせ

建築計画



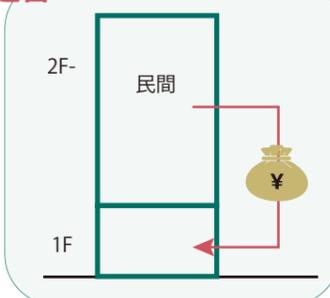
②既存施設との一体利用

建築計画



③1階の機能と2階以上の機能とが関連するように計画

運営



④2階以上は民間に委託し、その収益で1階の運営費や維持費を賄う

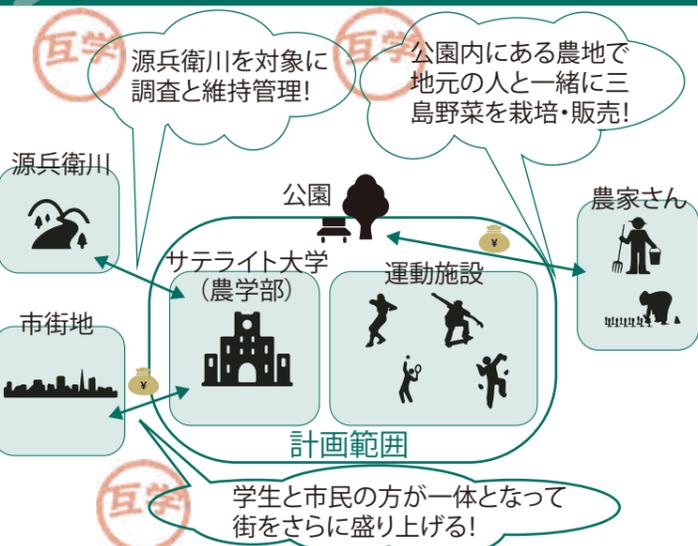


賑やかな公園の中にサテライトキャンパスが入る



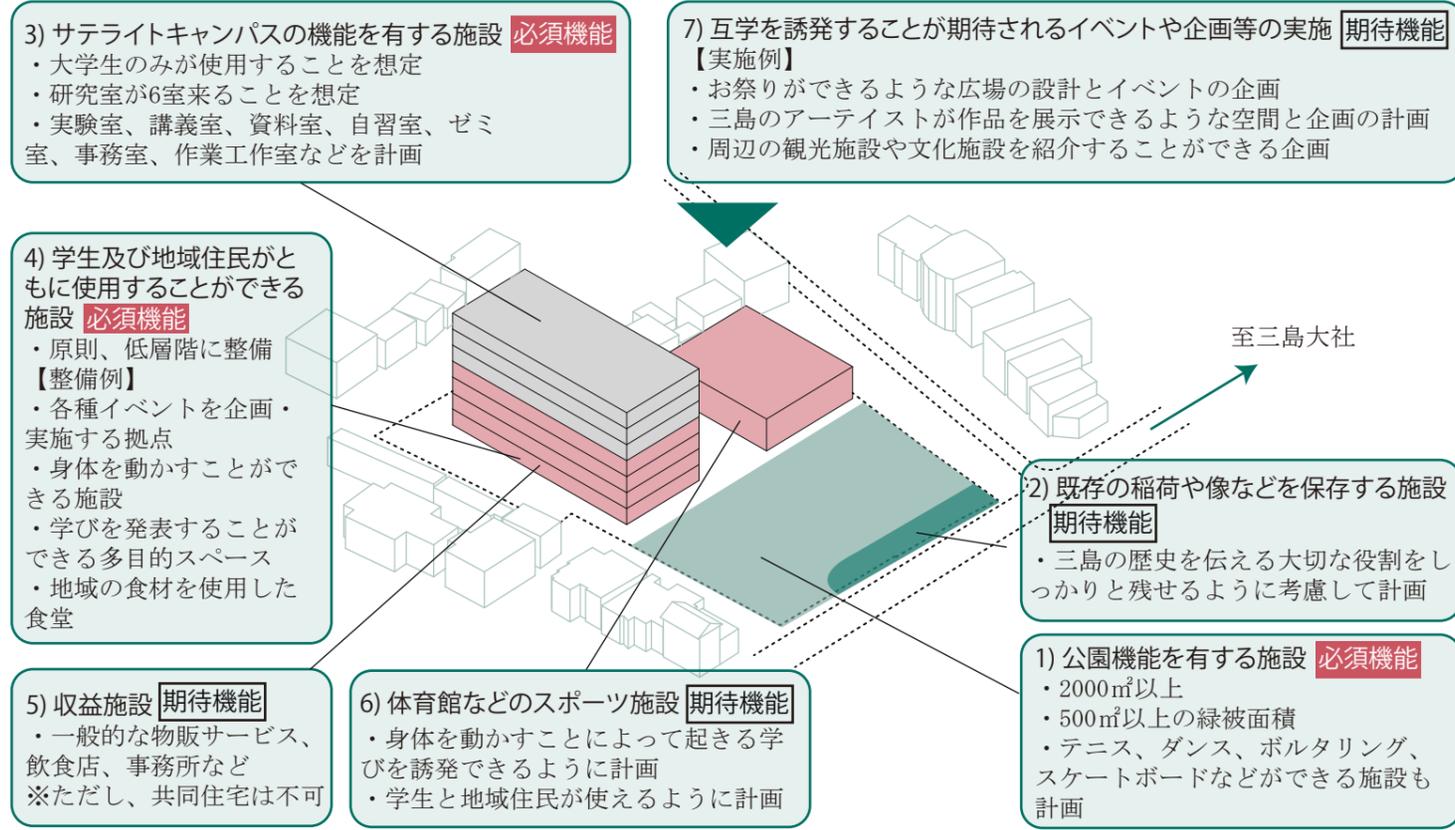
豊かなオープンスペースで互学が生まれる

01 本計画の全体像

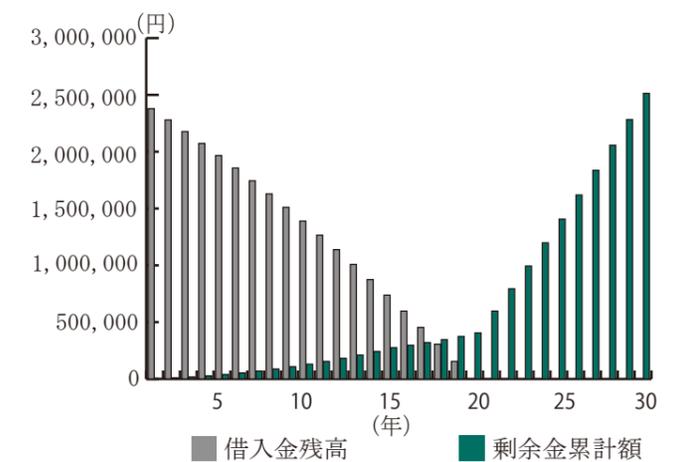


誘致する農学部のサテライト大学を中心とした計画であり、従来のキャンパスのような「施設」の枠組みを超え、人や情報の「知の交流の場」となることで、街に開かれたアクティビティを刺激する存在となることを目指しています。市役所が移転したことによって減少した昼間人口の補完や若者人口を増やすことによる雇用創出、商店街利用者の増大による地域活性化などの課題も同時に解決できるように計画をします。

02 要求機能とダイアグラム



03 建替え投資による事業収支



築年数が経過している建築物であるので、安全性と利便性を考慮して全面建て替えとして計画します。本計画では貸付面積を4310㎡、月額平均賃料を4千円/㎡、入居率を90%、賃料上昇率を2%、経費率を10%、解体工事費単価を25千円/㎡、建替え後延べ床面積を6000㎡、建替え時建築工事費単価を424千円/㎡、経費率を10%、減価償却本体比率を10%、自己資金を投資総額の1/5、借入金返済年数を20年、借入金金利を2.5%、実効税率を30%と想定し、借入金残高が剰余金累計額を下回るのは18年後となり、一般的な事業収支より改修年が遅くなっています。

B 中央町別館跡地 子供と賑わう!

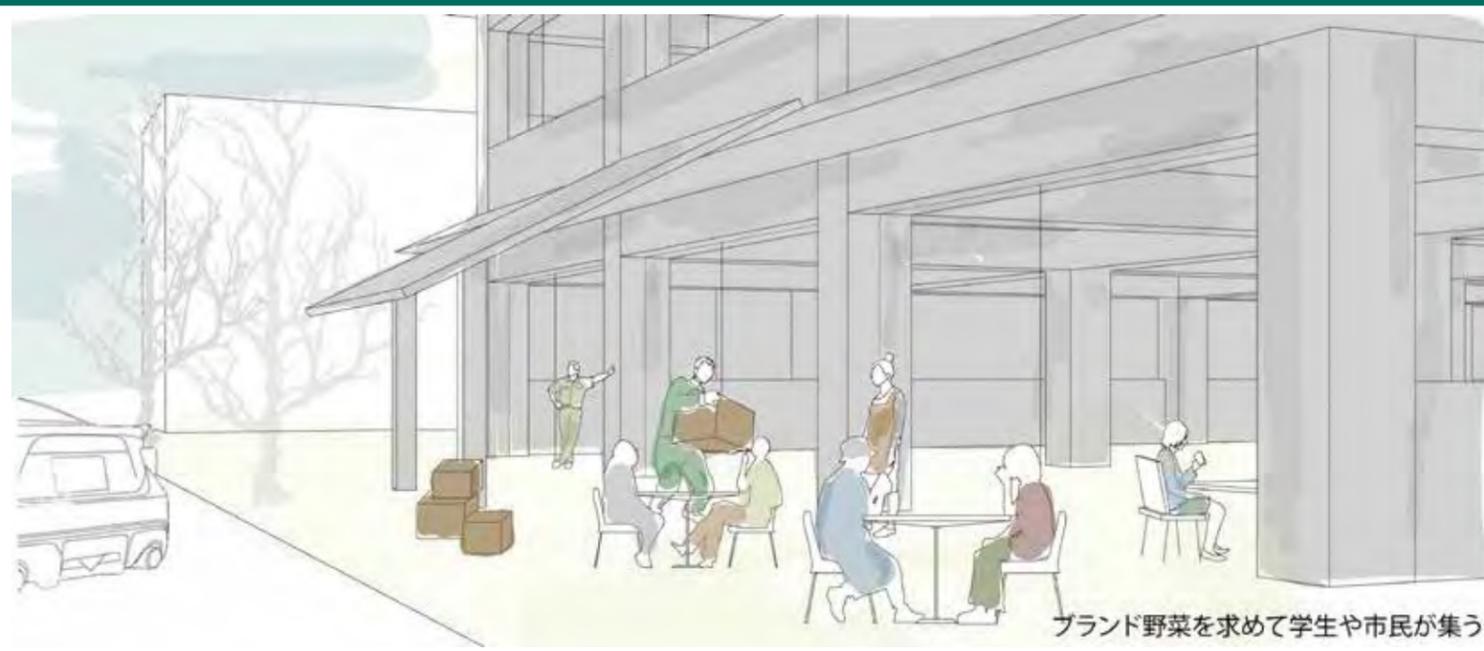
郵便局×住戸×
子ども食堂

C 大社町別館跡地 情報の発信地!

サテライト図書館×
宿泊施設×食堂

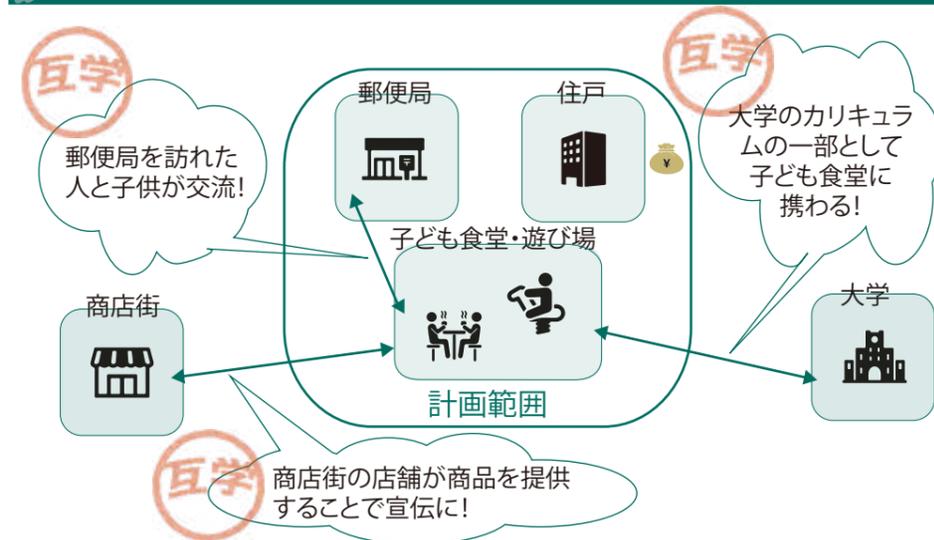


1階が子ども食堂と郵便局で賑わう



ブランド野菜を求めて学生や市民が集う

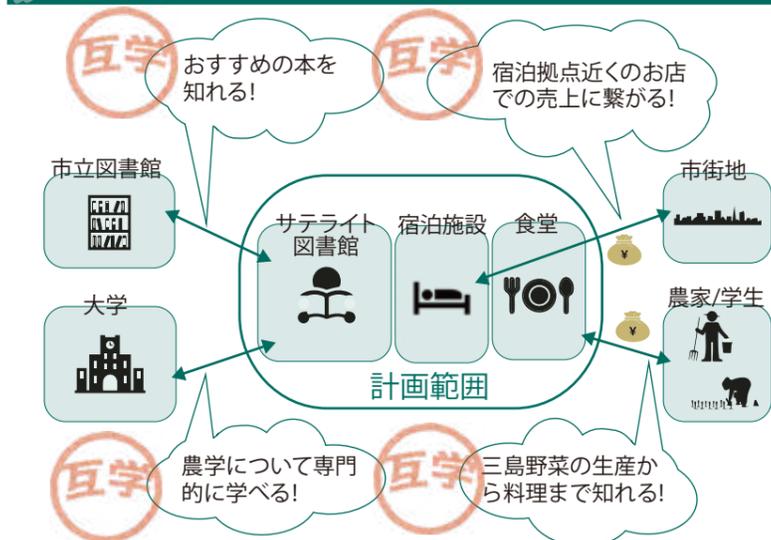
01 本計画の全体像



現在の郵便局の機能を残し、そこに普段郵便局を訪れる機会の少ない子供の居場所(子ども食堂・遊び場)を併設させることで、年代の枠組みを超えた交流が生まれることを目指しています。郵便局へ来た人と食堂や遊び場に来た子供とが、自然と出会い一緒に過ごすような空間を計画します。

また子ども食堂が大学や商店街と関わりを持ったり、遊び場を使ってイベントが開催されたりと、三島全体の交流や活性化に繋がる拠点となるよう計画します。

01 本計画の全体像

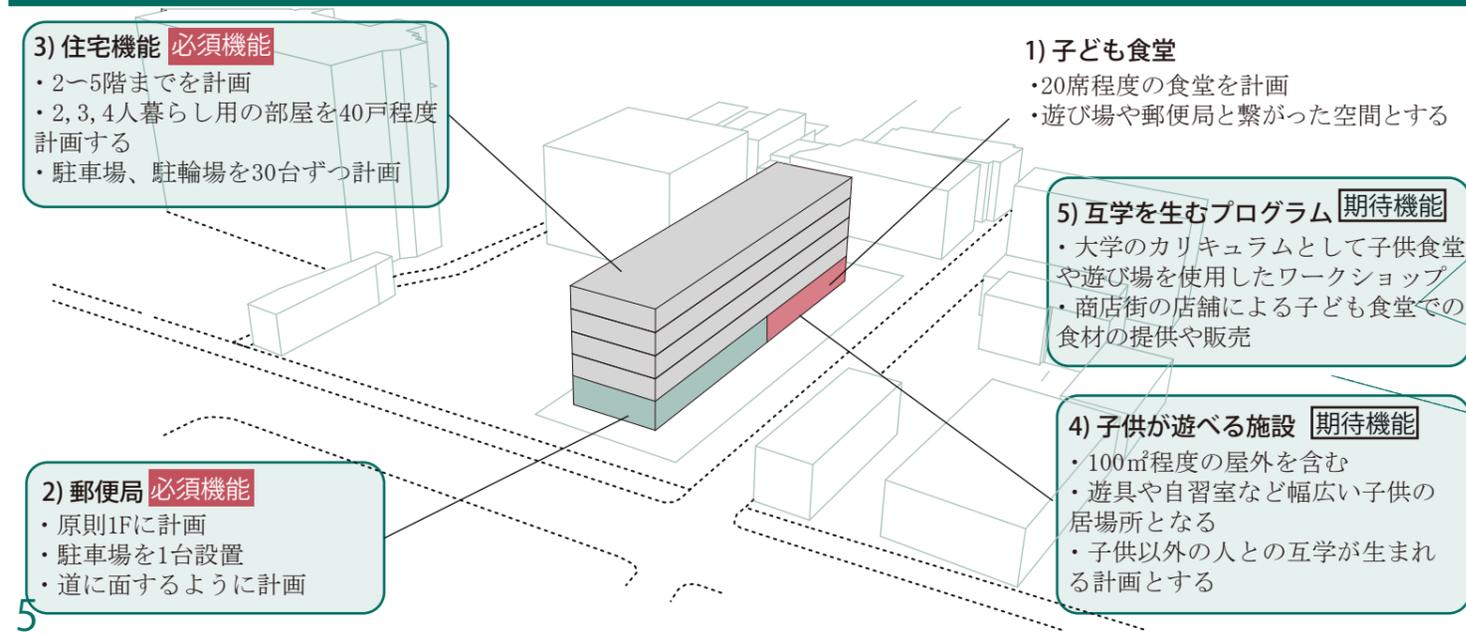


大社町別館跡地には、誰でも利用可能な食堂、誘致した大学の学生やその家族、観光客のための宿泊施設、既存の図書館が持たない機能を持つサテライト図書館を計画します。

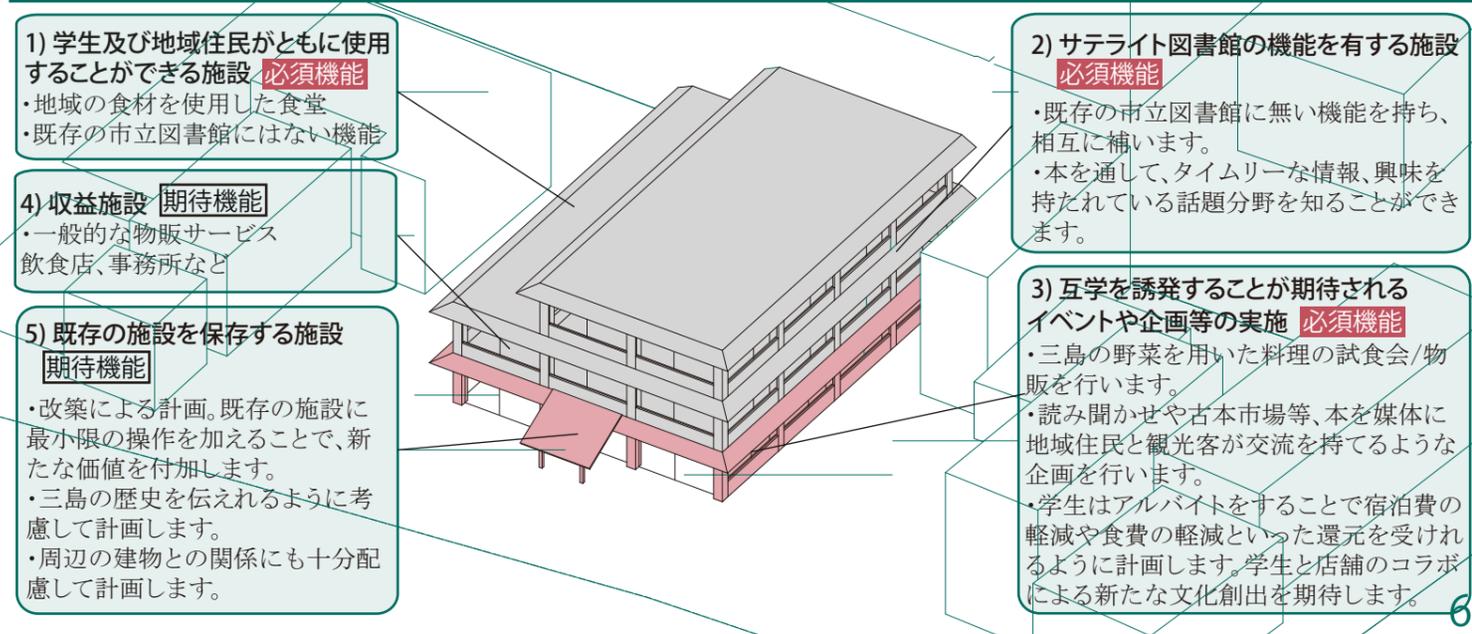
三島で生産した野菜を料理を提供する食堂では、誘致した大学の学生の声を聞いたり、実際に食することで農学や食への学びが生まれるように計画します。

専門的な知識や体験、三島に住まう人々と観光客の交流などを通して、一見関係が無いような類の人々がこの施設を通して相互的に学びを深めることができるように配慮した上で計画します。

02 要求機能とダイアグラム

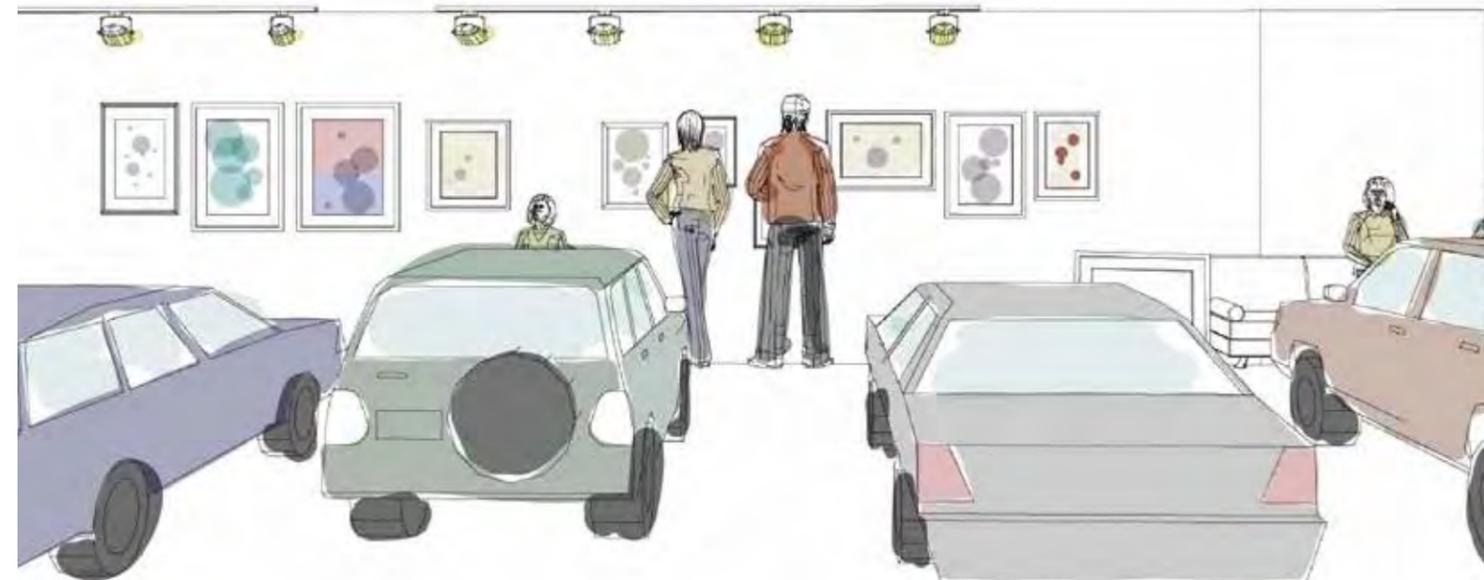


02 要求機能とダイアグラム





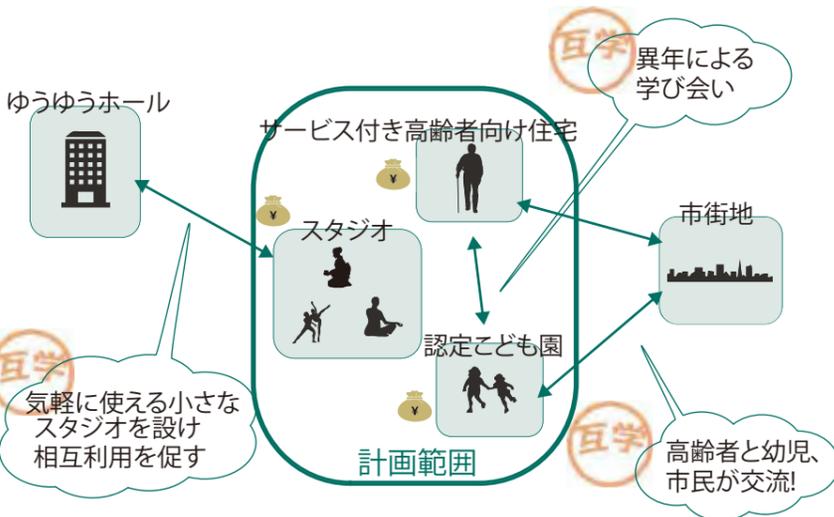
園児と高齢者が遊ぶ園庭



駐輪場とギャラリーの組み合わせを見る

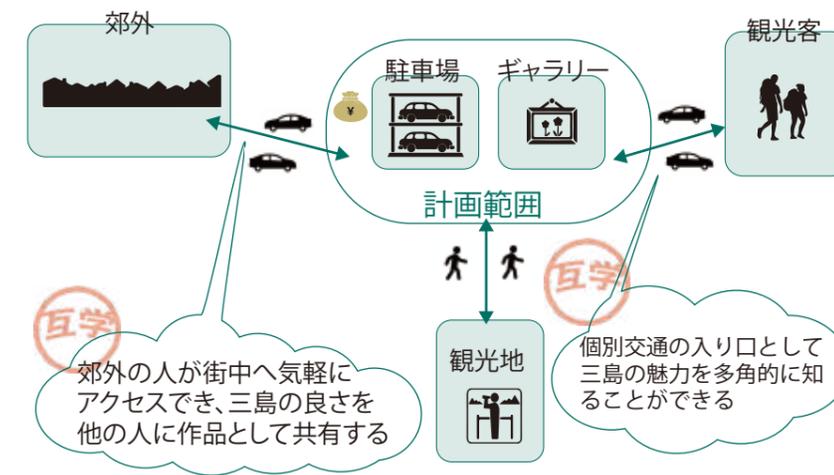
01 本計画の全体像

01 本計画の全体像



福祉会館跡には、認定こども園とサービス付き高齢者向け住宅、スタジオを計画します。

幼児や高齢者のような年齢の異なる、普段交わらない人々を掛け合わせることで、双方の学びを生み出すことを目指します。また、少人数でも利用しやすいスタジオを併設し、スタジオとしての機能を有するだけでなく、既存文化施設の公演情報に関する発信を見て、興味のある公演を見つけ易くすることによって、既存施設との相互利用の推進を図ります。



現状の駐車場機能に加え、1階を観光案内所として、2階以上をギャラリーを兼ねた駐車スペースとして計画します。

主な収入源の一つともなっている駐車場は、市役所が移転することにより大幅な利用者減が見込まれるため、「新幹線が止まる街三島」において車で来る観光客をターゲットとし、個別交通の玄関となるように計画をします。

2階以上のギャラリーは市民によってコンテンツがつけられ、観光客にとっては地元の人がおすすめるスポットが知れる場所であり、市民にとっては三島の良さを再発見できる場所になります。

02 要求機能とダイアグラム

02 要求機能とダイアグラム

- 1) サービス付き高齢者住宅の機能を有する施設 **必須機能**
- ・自力で体を動かすことのできる高齢者12人の入居を想定
 - ・部屋はベットや洗面など最低限にし、部屋の外が生活のベースとなるように計画
 - ・食堂、調理室、多目的室、浴室などを計画

- 2) 認定こども園の機能を有する施設 **必須機能**
- ・0歳から5歳までの40人を預かれるよう計画
 - ・各年齢ごとに建具や壁で仕切られた空間を設ける。

- 4) 園児と高齢者及び地域住民がともに使用することができる施設 **必須機能**
- ・園児や高齢者、地域住民が交流できるような空間

- 3) スタジオの機能を有する施設 **必須機能**
- ・50㎡ほどのスタジオを二つ計画
 - ・園児や高齢者も使える一方、市民がヨガやお花教室で使うことを想定

- 5) 園児が遊べる園庭 **期待機能**
- ・200㎡以上
 - ・長短比2:1以上の使いやすい形、大きくなるように計画

- 2) ギャラリー兼駐車場 **必須機能**
- ・現状の駐車場機能を維持する
 - ・150台以上の車が駐車できるように計画する
 - ・エレベーターを設け、利便性を向上させる

- 1) 観光案内所の機能を有する施設 **必須機能**
- ・主に観光客向けの施設であり、駅とはまた別の魅力をもった施設として計画
 - ・アクセシビリティを高めるために一階に配置する
 - ・休憩も可能となるようにラウンジを設け居心地の良い空間にする

- 3) 駐輪場 **必須機能**
- ・ウォークアブルな街にするために計画する
 - ・駐輪スペースを20台分以上及びレンタサイクルを誘致できるスペースを設ける

- 4) 有事に対応した機能 **期待機能**
- ・有事の際には防災拠点のひとつとしての役割も期待されるため、施設利用者のほか、近隣住民等の一時避難の受け入れ、BCP(業務継続)の観点から積極的に「備蓄倉庫」やその他必要と思われる室を適宜設ける